



独立行政法人 国立病院機構
村山医療センター

Vol.29

平成 27 年 1 月発行

発行者 院長 朝妻 孝仁

医療連携通信

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園 2-37-1 TEL 042-561-1221 FAX 042-564-2210 <http://www.murayama-hosp.jp/>



目 次

- ◇ 新年のご挨拶
 - 院長 朝妻 孝仁 2
 - 地域医療連携室長 植村 修 3
 - 地域医療連携係長 西村 由紀 3
 - 副看護師長 有田絵理子 3
- ◇ 脊柱・脊髄手術の最先端～術中モニタリング～
 - 整形外科医師 安田 明正 4
- ◇ 携帯電話の使用について 5
- ◇ 外来診療担当医師 6

新年のご挨拶



院長 朝妻 孝仁

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく
お願い申し上げます。

新年を迎え、昨年の目標を振り返りつつ、今年の村山医療セン
ターの目標を述べさせていただきます。まず第一にここ数年の目
標である新病棟立替えを現実のものとしていきたいと思ひます。

当院の経営状況は、職員ひとりひとりの自覚と努力の結果、ここ3年間、右肩上がり
で改善してきました。旧国立病院時代と異なり、病院の建て替え、大型医療機器の
整備等の事業は個々の病院の経営状況から、国立病院機構本部が、承認すること
により初めて実現します。当院の外来棟、病棟は築50年に近く、老朽化しており、
患者さんにも不便をおかけしています。一刻も早く建て替え工事を実現できればと
願っています。

第二に内科、外科の診療体制の強化です。高齢者社会を迎え、当院を受診される
患者さんも年々、高齢化が進んでいます。高齢の患者さんは、様々な合併症を持
っておられる場合も多く、複数の科の医師の協力が必要です。昨年4月に、リウマ
チ内科の専門医が入職し、現在、内科の常勤医は2名となりましたが、外科は昨
年1名1名が退職し、十分な診療体制が構築されているとは言えません。そのた
め医師の招聘活動をさらに積極的に展開し、病院全体として総合力の強化を計
りたいと思ひます。

第三に医療サービスの向上です。当院では患者さんからのご意見箱を設置し、患
者さんからのご要望、ご批判等をすべて検証させていただいていますが、皆様が
村山医療センターを受診してよかった、と思っただけのようさらきめ細かいサ
ービスに努めていきたいと考えています。従来整形外科の、初診の患者さんには、
診察まで長時間お待たせし、ご迷惑をおかけしましたが、昨年より電話および
インターネットからの予約を開始し、待ち時間解消に努めています。また病院食
の献立をホームページに掲載し、ベッド上に臥床されている患者さんにも
スマートフォンなどから情報が届くように改善しました。

第四に医療連携のさらなる強化です。昨年は当院主催の医療連携を目的とした
講演会、セミナーを3回開催しました。地域の病院、診療所の関係者の皆様に
ご参加いただき、face to faceで意見交換をすることにより、交流を深めたの
ではないかと自負しています。本年も同様の企画を考えています。

また、昨年よりホームページ充実に努めてまいりましたが、看護の日のイベ
ント、市民公開講座などの情報に加えて、専門医による疾患の解説、医療連
携ネットワークなどの情報を随時、更新しています。是非ご一読いただければ
幸いです。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

地域医療連携室長 植村 修



平成26年度の診療報酬改定における目玉である地域包括ケア構想は、医療機関の機能分担をさらに促すものと思われます。そこでは、在宅療養が中心に据えられており、それをいかに地域で支えるかが重視されています。地域包括ケア病棟の診療報酬をみると、疾患別リハビリテーション料すら診療報酬に包括されています。一方、診療点数早見表では同じリハビリテーションの項に記載されているにも関わらず、摂食機能療法は別に算定できることになっています。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、現在日本人の死因の第三位は肺炎になっています。そのうち少なからぬ割合が誤嚥性肺炎であることは想像に難くありません。これらのことを考慮すると、地域包括ケア構想とは高齢者の肺炎治療を、在宅への調整も含めて、もっと積極的に行うようにというメッセージであるような気がしてなりません。

村山医療センターは地域の回復期を担う医療機関として中心的な働きをしてきました。比較的重篤な患者さんを多く受け入れし、そして地域にお戻ししてきたという自負が少なからずあります。しかし、では地域高齢者の誤嚥性肺炎（後）に対して、大きな役割を担ってきたかと振り返ってみると、残念ながらそうではなかったように思われます。この反省を踏まえて、村山医療センターでは昨年6月から地域包括ケア病棟を立ち上げ、運営しております。人的制限もあるため、急性期の高齢者医療を当院で行うことには困難が生じますが、急性期と在宅の懸け橋となって今までより一層、地域に貢献できるように精進してまいりたいと思います。未だ至らないことが多々ありますが、皆様のご指導ご鞭撻を頂戴しながら、よりよい地域医療の姿を模索してまいりたいと思います。

最後になりましたが、本年も皆様方のさらなるご発展を祈念するとともに、当センターの事業への御理解の程、何卒よろしくお願い致します。



地域医療連携係長 西村 由紀

新年あけましておめでとうございます。去年は、患者さんが住み慣れた在宅で、より安全で安心できる生活ができるような支援を心がけてきました。退院前のカンファレンス等では、地域スタッフの方のご協力をいただきありがとうございました。今後も情報交換を密にし、患者さんの生活をよりよいものにしたいと考えています。平成26年10月より、退院調整看護師が1名増員となりました。よろしく申し上げます。



副看護師長 有田 絵理子

10月から地域医療連携室に配置になりました有田絵理子と申します。退院調整看護師として活動をしています。入院患者さんとご家族の意向に沿い、‘生活の場’であるご自宅や施設等で必要な医療・看護・介護が継続して受けられ、安心して在宅療養へ移行できるように退院支援・退院調整を行っています。地域で開催されている連絡会や研修会に積極的に参加し、地域の皆様と連携強化に努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

脊柱・脊髄手術の最先端～術中モニタリング～

術後麻痺を減らすための戦い

整形外科医師 安田 明正



背骨が湾曲してしまう側湾症の手術や脊髄に腫瘍ができた場合、難しい手術では手術後に麻痺が出現してしまうことがあります。術後の麻痺は軽快することもあります。時としては残存してしまうこともあります。脊椎・脊髄の手術では全身麻酔で行うため、患者さんは深く眠ってもらいます。そのため手術中に神経の障害（まひ）が出ているか否かを確認することはできません。以前は術者の「勘」に頼らざるを得なかったため、脊椎・脊髄の手術の後は麻酔が覚めて手足が動くのを心配しながら見守る必要がありました。

近年は、術中に患者さんの神経症状の変化を観察可能な装置が開発・改良されてきました。それがMEP（motor evoked potentials: 運動誘発電位）・SEP（somatosensory evoked potentials: 体性感覚誘発電位）といった術中モニタリングシステムです。

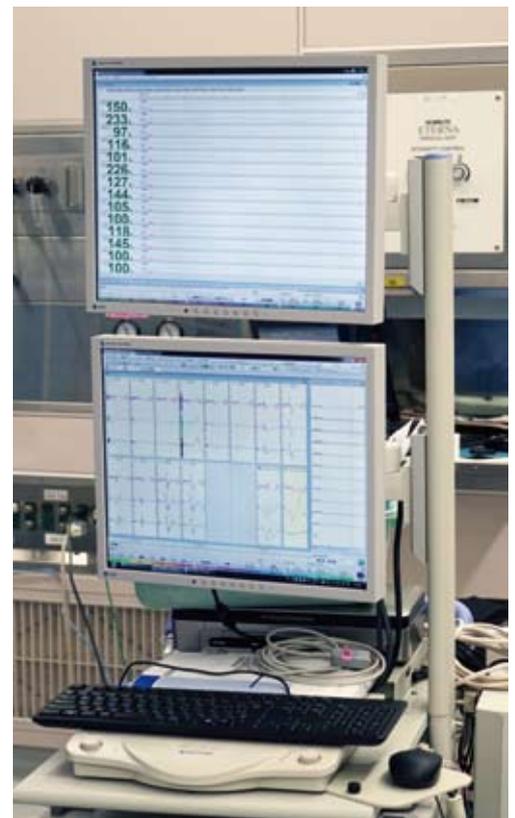
麻酔がかかった後、頭に電極をつけて、手術中に電気刺激を行い反応を確認します。弱い電気刺激を送り、手足の筋肉の電流をモニター上で確認します。術中に神経にダメージが加わると波形が小さく変化したり出なくなります。その場合は手術を一時中断し、神経の回復を待つために少し休憩をします。手術部位をチェックして修正し、波形の回復がなければそれ以上神経に無理はできないので手術を終了にします。こうすることで脊髄手術の安全性が高まります。

実際に、日本脊椎脊髄病学会では脊椎脊髄手術を行う際にアラームポイント（危険域）を設定して手術を進めたところ、術後の麻痺が減ったという報告も行われております。

もちろんすべての脊椎・脊髄手術にこのモニタリングシステムが必要なわけではありませんし、たとえモニタリングを行っていたとしてもさけられない麻痺が出現することはあります。脊髄モニタリングの有用性についての報告は多くされており、手術の安全性の向上につながっていますが、手術部位・術式・麻酔法によってはモニタリングの有用性が得られにくいこともあります。

今後、麻酔方法の影響も受けず、正確に手術後の麻痺を確実に予測・予防できる手法の開発が待たれます。

当院においても数年前からこの手法を導入し、できうるだけ安全な手術を遂行できるよう努めてきております。またさらなる手法の開発のための研究も行っています。



術中モニタリングシステム

◆携帯電話の使用について

村山医療センターでは病院内の一部で携帯メールやインターネットへのアクセスができるようになりました。

大部屋では携帯の通話は遠慮いただいておりますが、インターネットやメールは使用可能です。

病院食献立表を閲覧できます。
ホームページアドレス



村山医療センターホームページ内に病院食の献立一覧を掲載することになりました。

たとえばベッド上での安静をしていなければいけない患者さんでもホームページにアクセスすればその日のメニューが確認できます。また季節ものの病院食を一部予告として写真付きで紹介していきます。

12月24日クリスマスメニュー（サンタさんはついてきません）

御飯
ローストチキン
ブロッコリー添
ノンオイルサウザン
セルティーコーンスープ
柚子香酢の物
いちご 3個



携帯電話の使用について(お知らせ)

携帯電話の通話及びメールの使用可能な場所には、このポスターが掲示してあります。

携帯電話 メール使用可能エリア

※各フロアごとの使用状況は、各フロアに掲示してあります。

携帯電話メール使用可能エリア(通話禁止)

※各フロアごとの使用状況は、各フロアに掲示してあります。

使用禁止エリア

※各フロアごとの使用状況は、各フロアに掲示してあります。

- ・病院職員から使用に関して指示があった場合は、その指示に従ってください。
- ・医療スタッフは医療機器に影響の無い院内専用のPHSを使用しておりますのでご安心ください。
- ・携帯電話の使用が可能な場所では、マナーモード及びサイレントモードに切り替えてください。
- ・他の患者さんの迷惑にならないようマナーを守ってご使用ください。

病院長

外 来 診 療 担 当 医 師

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

平成27年1月1日現在

■ 一 般 外 来

 ※受付時間 (初診：8時30分～11時まで)
 (再診：8時30分～12時まで)

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内 科		片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田		
外 科			瀬 川	瀬 川	瀬 川	瀬 川 (10時～)		
整形 外科	再 診	脊 椎	○朝 妻 ○竹 光	◎谷 戸 ◎藤 吉 ◎三 宅	○○金 子 ○八 木	○町 田 (正) ◎許 斐	◎安 田 佐 藤	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関 節	中 村		窪 田		笹 崎	股・膝関節・下肢
	一 般				町 田 (真)			
	初 診	交替制						
リハビリテーション科		宇 内	植 村	富 岡		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…富岡 第2金…植村 第3金…宇内	
歯 科		宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	

■ 専 門 外 来

※受付時間 13時～

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内科リウマチ					片 寄 (13:00～)			
側 弯		齋 藤 (第4週のみ)		八 木 (13:30-15時)	町 田(正) 金 子(第2・4週14-16時)	八 木 (第2・4週15-17時)	予約制	
骨粗鬆症 (13:30～15:00)					町 田(正)		予約制	
装具外来 (リハ棟)		植村/富岡/ 宇内					予約制	
検 査	内視鏡	上部消化管 (武居)			上部消化管 (井原)		予約制	
		—	ERCP (瀬川)	—	下部消化管(井原) ERCP(瀬川)		予約制	
	超音波	頸部・甲状腺/腹部・骨盤						予約制
		下肢(病棟)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(病棟)		予約制
消化管造影 検査							予約制	

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

外来受診電話予約のご案内

受付時間：月～金（平日）の 午後1時～5時

外来予約専用電話：042-561-1698

042-561-0965